令和元年度 高松市外部評価 結果一覧

開催日	8月22日		8月23日	
事業番号	1	2	3	4
事業名等	災害援護事業	障がい者スポーツ推進事業	たかまつマイロード事業	ふるさと高松応援寄附促進事業
H30年度事業費(決算)	4,113千円	17,345千円	1,979千円	45,026千円
H30年度総事業費(決算)	14,700千円	26,419千円	3,189千円	56,369千円
判定結果	改善	継続	継続	継続
評価の意図	民間サービスとの連携や電子申請の導入など、申請方法の多様化を検討すること。また、避難支援者確保などの課題解決のために、市は、先進地区のモデルケースの情報を各コミュニティ協議会に提供するなど、地域力の向上に向けての支援をする必要がある。	障がい者のスポーツ人口の増加や競技力の向上を図るために、今後においても健常者の視点だけでなく、障がい者の視点に立った事業内容を推進してほしい。そして、競技者人口のみならず、障がい者スポーツに関わる審判やスタッフなどの障がい者スポーツを支える応援者人口の増加につなげてほしい。	意義のある事業で、継続していくべきである。認定団体を増やしていくために、教育機関や企業に対しての働きかけを推進するほか、道路への愛護に関するPRを実施してはどうか。	継続して本市を応援してもらえるよう、寄附者の分析、寄附後の事業成果の報告、お礼品やPR方法の工夫が必要と思われる。他都市の状況分析や近隣自治体との情報共有を図り、本市に最適な実施方法により、事業を推進してほしい。
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・名簿登録者を増やすために、SNSやHPからの電子申請を可能とするなど、申請方法を多様化し、気軽に登録できるようにしてはどうか。 ・災害援護事業について、県から何らかの支援があれば、県と連携して進めてはどうか。 ・支援が必要な方を把握するために、地域の方と信頼関係のある民生委員や自治会長との協力は不可欠である。 ・民間事業者が実施する見守りサービスとの連携を図ってはどうか。 ・避難支援者確保のために、行政が先進地区の取組事例を、他の地域に紹介してはどうか。 ・ご近所付き合いが希薄になってきている時代だが、災害時こそ地域のつながりが大切だという意識を高めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者が先天性か後天性か、また、障がいの程度により、スポーツ経験値や身体的能力に違いがあるため、パラリンピックを基準にした障がい者スポーツの推進は、ハードルが高く感じる。共生社会の実現を目指すためには、様々な障がい者の視点に立つことも必要である。 ・競技者人口を増やすことに加え、その競技の応援者(審判やスタッフなど)人口を増やすことも求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校は、地区の清掃活動を積極的に行っているところが多いので、活動している学校を認定してはどうか。 ・企業に、認定ステッカーを配付すれば、イメージアップにつながり、企業参加が促進されるのではないかと。 ・企業の参加が少ないので、商工会議所や経済同友会などを通じてPRしてはどうか。 ・郊外では、認定されていない団体や個人の方々でも自宅周辺の市道を清掃している方々はいらる。認定団体を増やしていただくだけでなく、市道を大切にしようと呼びかけていくことも大切。 ・学生の頃から、自発的に地区の清掃活動に携わっていくことは、教育的側面からも意義があるので、推進していくほうがよい。 ・市道と県道や国道の区別なく清掃している方もいるため、そういう方々も認定できるようにしてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の寄附者の分析や、寄附金額の多い自治体の工夫点などを研究してはどうか。 ・お礼品の魅力以外に、広報力が重要。発信力のある有名人を起用するなど、有効な方法を検討するべき。 ・県と市とでイメージが重複している。相乗効果を得られるように県と協議・連携してはどうか。 ・年度ごとに発行しているリーフレットに、前年度の寄附に対するお礼のほか、寄附の用途や成果を記載してはどうか。 ・香川には銘菓が多い割に、お礼品には菓子類が少ないので、追加を検討してはどうか。 ・体験型のお礼品と併せて、他のよく似た体験型のお礼品やイベント情報を提供できるようにしてはどうか。

※評価結果は、本市の最終判断ではありませんのでご注意ください。